

# 2022年度 上半期業績の概要

2022年11月25日



大樹生命保険株式会社

 日本生命グループ

1. 決算のポイント	… P 1
2. 収支の状況	… P 2
3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	… P 3
4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	… P 4
5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕	… P 5
6. 損益計算書・貸借対照表・健全性	… P 6
7. 新型コロナウイルス感染症に関する主な対応	… P 7

# 1. 決算のポイント

- 2022年度上半期決算は、増収・減益
- 保険料等収入は、一時払外貨建養老保険の販売増加を主因に増収
- 基礎利益は、新型コロナウイルス感染症に係る給付金支払の増加による危険差益の減少により減益
- ソルベンシー・マージン比率は、海外金利上昇に伴う有価証券の含み損益の減少等により前年度末から低下

## 2. 収支の状況

- 保険料等収入は、一時払外貨建養老保険の販売増加を主因に、前年同期比45.7%増の4,136億円。
- 基礎利益は、新型コロナウイルス感染症に係る給付金支払の増加による危険差益の減少により、前年同期比53.7%減の102億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2021年度 上半期	2022年度 上半期	前年同期比
			増減率
保険料等収入	2,839	4,136	+ 45.7
基礎利益	220	102	▲ 53.7
利差損益	▲ 125	▲ 76	△ 39.2
費差損益	6	26	+ 320.7
危険差益	339	151	▲ 55.4

(注1) 増減率の“△”は改善



(注2) 基礎利益は定義見直し後の基準にて算出

### 3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

■ 新契約年換算保険料は、一時払外貨建養老保険の販売増加を主因に、前年同期比33.1%増の161億円。

(単位:千件、億円、%)

区 分	2021年度 上半期	2022年度 上半期	前年同期比
			増減率
新契約件数	66	69	+ 3.6
新契約高	3,365	3,642	+ 8.2
新契約年換算保険料	121	161	+ 33.1

(注)「新契約件数」は、新契約に転換後契約を加えた数値



## 4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

■ 保有契約年換算保険料は、前年度末と同水準の5,129億円。

(単位:千件、億円、%)

区 分	2021年度末	2022年度 上半期末	前年度末比
			増減率
保有契約件数	2,597	2,576	▲ 0.8
保有契約高	173,128	169,969	▲ 1.8
保有契約年換算保険料	5,118	5,129	+ 0.2



## 5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕

- 団体保険（保有契約高）は、総合福祉団体定期保険の保有が増加した一方、団体定期保険の保有が減少したことから、前年度末比4.2%減の1兆985億円。

（単位：億円、％）

区 分	2021年度末	2022年度 上半期末	前年度末比
			増減率
団体保険（保有契約高）	115,793	110,985	▲ 4.2
団体年金保険（保有契約高）	7,809	7,281	▲ 6.8
一般勘定	6,592	6,111	▲ 7.3
特別勘定	1,216	1,169	▲ 3.9

（注）団体年金保険の保有契約高は、責任準備金の金額



## 6. 損益計算書・貸借対照表・健全性

- 経常利益は、基礎利益の減少等により、前年同期比40.7%減の114億円。
- 中間純利益は、経常利益が減少した一方、前年同期に固定資産の減損損失を計上した反動により前年同期から増加し、45億円。
- ソルベンシー・マージン比率は、海外金利上昇に伴う有価証券の含み損益の減少等により、前年度末から196.9ポイント低下の783.9%。

### < 損益計算書 >

(単位: 億円、%)

区 分	2021年度 上半期	2022年度 上半期	前年同期比 増減率
経常収益	3,649	6,363	+ 74.4
保険料等収入	2,839	4,136	+ 45.7
資産運用収益	736	2,165	+ 194.1
経常費用	3,456	6,248	+ 80.8
保険金等支払金	2,459	4,410	+ 79.3
資産運用費用	402	803	+ 99.9
事業費	440	431	▲ 2.1
経常利益	193	114	▲ 40.7
中間純利益又は中間純損失(▲)	▲ 78	45	—

### < 有価証券 含み損益 >

(単位: 億円)

区 分	2021年度末	2022年度 上半期末	前年度末比 増減額
有価証券	4,339	310	▲ 4,029
国内公社債	2,511	859	▲ 1,652
国内株式	2,236	1,972	▲ 263
外国証券	▲ 448	▲ 2,454	▲ 2,006
その他	40	▲ 66	▲ 106

(注) 市場価格のない株式等および組合等は除いて算出

### < 貸借対照表・健全性 >

(単位: 億円、%)

区 分	2021年度末	2022年度 上半期末	前年度末比 増減率
総資産	79,117	77,745	▲ 1.7
有価証券	60,900	58,993	▲ 3.1
貸付金	9,434	9,157	▲ 2.9
有形固定資産	1,512	1,481	▲ 2.1
負債	74,262	74,554	+ 0.4
保険契約準備金	65,867	66,328	+ 0.7
責任準備金	65,042	65,467	+ 0.7
純資産	4,855	3,191	▲ 34.3
ソルベンシー・マージン比率	980.8%	783.9%	▲ 196.9ポイント*
実質純資産額	11,030	7,043	▲ 36.1
実質純資産比率	14.3%	9.3%	▲ 5.0ポイント*

(注1) \* のポイントは前年度末との差

(注2) 「実質純資産比率」 = 「実質純資産額」 ÷ 「一般勘定資産」

## 7. 新型コロナウイルス感染症に関する主な対応

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けている皆さまに心からお見舞い申し上げます。当社では、お手続きの際、必要書類を一部省略する等により、簡易なお取扱いをしています。また、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた場合、災害死亡保険金等のお支払いの対象としてお取扱いをしています。

### 【給付金のお取扱い】

- ◆ 2022年9月25日以前に診断された場合  
病院等への入院だけでなく、医療機関の事情等により、医師等の指示で自宅またはホテル等臨時施設で治療を受けられた場合も、疾病入院給付金のお支払いの対象となります。
- ◆ 2022年9月26日以降に診断された場合  
病院等に入院された方、および「重症化リスクの高い方」(\*)で医師等の指示で自宅またはホテル等臨時施設で治療を受けられた方がお支払いの対象となります。  
(\*) 厚生労働省の定める以下のいずれかに該当される方  
①65歳以上の方 ②入院を要する方 ③妊娠中の方 ④重症化リスクがあり、  
新型コロナ治療薬の投与または新型コロナ罹患により新たに酸素投与が必要な方

### 【新型コロナウイルス感染症による保険金や給付金の支払状況】

(2022年4-9月)

- 死亡保険金：約140件、約6.9億円
- 入院給付金：約92,000件、約102.5億円